

館報 はた

スージーちゃん スイカ7くん

令和元年9月1日現在

世帯数	6,190戸
人口	15,696人
男	7,568人
女	8,128人

「子どもたちの笑顔が輝く楽しい学校」を目指して

波田小学校長 和田 宏

「校長先生、おはようございます」と、気持ちのよい挨拶で一日がスタートします。校庭へ行くと、マラソンやサッカー、陸上などを頑張っている子がたくさんいます。校舎内を回ると、調べ学習や話し合いなど、熱心に学ぶ子どもたちの姿があります。掃除の時間には、膝をついて黙々と床を磨いてくれています。

風格ある赤松林に囲まれ、五月には朱色に染まるツツジが咲き並ぶ豊かな自然環境。明るく素直で、一生懸命活動に取り組める子どもたち。そして、学校や教育を大切にしてください。保護者や地域の皆さん。こんなすばらしい波田小学校に赴任できたことを大変うれしく思っています。

【ま】 学び合おう
【つ】 続けよう
【か】 輝こう
【せ】 全員で

波田小学校は、素晴らしい



学校目標をもっています。この目標に向けて、本年度は、「よく聞き、進んで話す」「マラソン」「あいさつ」の3点に重点をおいて、職員が一丸となつて取り組んでいます。算数の授業で、こんな場面に出会いました。Aさんが、黒板の前に出て一生懸命自分の考えを説明しています。でも、うまく伝わらず、他の子どもたちの反応もよくありません。それでもAさんは、みんなに分かってもらおうと一生懸命説明し直します。そんな時、Bさんが、「分かったよ」ということでした。Aさん、Aさんの考えをみんなに分かるように伝えてくれました。この場面では、

面では、

あきらめずに説明しようとするAさんと、Aさんの考えを理解しようとするBさんの姿が、代弁してくれました。Bさんの姿が、切ろうとする頑張り」と、「友だちを理解しようとするやさしさ」の姿です。

では、どのような子が、このような「頑張り」や「やさしさ」を発揮できるのでしょうか。それは、「自分への信頼」がある子だと言われています。「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」などと、自分を肯定する感覚です。

アメリカの教育学者、ドロシー・ロー・ノルトの詩に、次のような一節があります。「心が寛大な人の中で育った子は、がまん強くなります。はげましを受けて育った子は、自信をもちます。ほめられる中で育った子は、いつも感謝することを知ります。(中略) 人に認めてもらえながら育った子は、自分を大事にします。仲間の愛の中で育った子は、世界に愛をみつけます。」

私たちは、子どもたちの「頑張る姿」や「やさしさ」に目を向け、伸ばしていくことができるように支援していきたいと思っています。そして、「子どもたちの笑顔が輝く楽しい学校」にしたいと考えています。



23区では、毎年2班に分かれて分館清掃を行います。夏と冬に1回ずつ行っています。今年8月4日(日)に約30名が参加し実施しました。朝8時から2時間位清掃するのですが、この日も猛暑で、熱中症に注意しながら、皆さんに頑張ってもらいました。

外のかべ、窓、中の床、水廻り、トイレや食器にいたるまできれいにしました。

23区 分館清掃

おかげで分館がとてもきれいなになり、区民のみならずにも喜んでいただけました。最後は冷たいジュースを渡して終了となりました。清掃していただいた皆様、本当にお疲れ様でした。



館報記事の訂正

館報はた7月号のオール野球大会の記事で、タイトルを、町内公民館対抗ソフトボール大会としておりましたが、正しくは、町内公民館対抗オール野球大会です。お詫びして、訂正いたします。

おしゃべりサロン

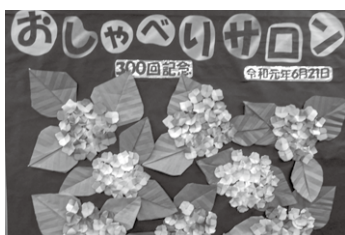
福祉ひろば事業のおしゃべりサロンが、300回を迎えました。

平成23年度の11月から始まり、今年度まで金曜日の午前中に行っています。

毎回二十数名の参加者があり、「毎週来るところがあつてありがたい。」「一人でいても話もせず、笑うこともない。ここに来ると皆の顔が見れて楽しい。」そんな声が聞こえてきます。

みんな集まると、とにかくおしゃべり。昔のこと、畑のこと、世の中のこと、自分のこと。話の内容は様々です。

楽しいおしゃべりの最中、ひろばコーディネーターから、「それではそろそろはじめましょうか。」と声がかかり、シルバー川柳で大笑いしたら、皆のリクエストにより歌を何曲か歌います。



「ひとりの手」「ボケない小唄」が歌の終了合図です。その後

は、脳トレ・ストレッチ・ゲーム・ニュースポーツ・折り紙等々、その日によつて違います。

この会に忘れてはならない方たちがいます。ボランテイア「やまびこ会」の皆さんです。会が始まる前に来てくれ、茶話会の準備やお掃除、足の痛い方たちのために、お茶を入れたり。なんととっても一番はお話し相手。毎回交代で来てくれるので、その度に雰囲気新鮮になります。

他にも、本の読み聞かせやハーモニカの伴奏、ストレッチや脳トレ・ゲーム等を用意してきてくれる方たちもいます。年に何回かはマジックを見せていただいたり、教えていただいたりの特別版もあります。

300回記念に、参加者とやまびこ会の皆さんで「紫陽花」の花を咲かせました。折り紙で花びらをたくさん折

り、皆で模造紙に貼りました。この会の参加者は半分以上が、車の運転をしない方です。波田の上の段から、スイカ畑の近くから、下の段から、「自分の健康のためだから」と、歩いて来ています。お互いが顔を合わせることで、支えあ

松本山雅FC 試合観戦

私は松本山雅FCがJ2の時、アルウィンでの試合観戦チケットを頂き見に行きました。中学生の頃に体育の授業でサッカーをしたくらいで、それ以来サッカーというスポーツを身近で見ることがなく何の予備知識もないまま「サンプロアルウィン」に行きました。

試合開始前から熱狂的なサポーターが緑のユニフォームを着て大きな声を出して応援している姿が印象的でした。松本山雅サポーターとアウェーチームのサポーターが対等にそれぞれの応援歌を力の限り歌い、拡声器、太鼓の打音調子よく、選手を励ます掛け声が響いていました。これが世間で言われている山雅サポーターのすごさかと改めて驚



ました。選手が一生懸命走る姿に感動し、山雅にはまりサポーターになりました。

昨年最終戦で優勝し、見事J1に昇格しました。今年最高のランクで戦う松本山雅FCの試合を見たくてCパスを購入し、いちサポーターとして応援に力が入り、懸命に声を出しています。

7月20日のサンフレッチェ広島戦では前半から双方譲らぬ激しいゲーム展開となりゴールは割れませんでした。強固な守備を見せて無失点に封じました。迎えた後半は2度の勝ち越しを許し、前田のゴールで追いつき、終盤実際に再びリードを許して敗戦が色濃くなりましたが、アディショナルタイムに、パウリーニョがゴールを決めて追いつき、勝ち点1を挙げました。スタジアムは興奮に包まれ、選手たち

に「次こそ勝とう」と声援が飛んでいました。強豪チームがしのぎを削るJ1ステージでは、後半戦厳しい戦いが予想されますが、「ONE SOUL境界突破」のスローガンのもと、ともに走り抜きましょう。



今年の夏も大変暑い毎日でした。猛暑日も熱帯夜

も、信州には無縁のものと思っていました。夏の風情を感じさせた「夕立」も「ゲリラ豪雨」と恐ろしい名前に変まりました。「熱中症」もすっかり身近な言葉になってしまいました。いつから夏はこんなにも危険な季節になってしまったのか。こんなことを考えながら花に水を蒔いていると、ふと、花壇の隅っこに出ているクロッカスの芽に気づき、はつとしました。

今年3月が暖かく、早めに芽が出たものの、4月に雪をかぶり結局咲かずじまいだったのに、今頃になって、また芽を出したのです。人が「昔はよかった。」「異常気象だ。」と騒いでいる横で、小さな命が黙って今を受け入れ生きようとしていました。「異常」も続けば最早「常態」です。昔に拘ることよりも今に合った過ごし方を考えることの方が大切であると教えられる気がしました。

